

第1回 二輪車のナンバープレートの様式の見直し及び
希望ナンバー制導入に係るワーキンググループ
議事概要

1. 日 時：令和5年6月27日（火）13：00～14：20
2. 場 所：中央合同庁舎3号館8階 自動車局第一・第二会議室
3. 出席者：浅井委員、岡安委員、北添委員、小松委員、玉虫委員、藤村委員

※五十音順

4. 議事（概要）

- （1）資料1「二輪車のナンバープレートの様式の見直し及び希望ナンバー制導入に係るワーキンググループ開催要綱（案）」について、委員の了承を得た。
- （2）当該ワーキンググループの座長として浅井委員が選任された。
- （3）資料2～4について説明し、議論を行った。

（委員からの主な意見）

- 希望ナンバー制を導入した場合の運用可能年数は重要で、その観点から方策案2—②、3—②が望ましい。さらに、数字4桁の視認性、プレートの金型変更への影響、システムへの影響から考えると、3—②で進めるのがいいのではないかと。
- 金型作成については、方策案3の方が方策案2より影響が少ない。希望ナンバー制の導入に対応するには、自動プレス機等の設備投資が必要であり、運用可能年数が長い方が頒布料金を抑えられることから、3—②が取り入れやすい。
- 方策案2と3を比べると、2は大掛かりな設備改修が必要となる。希望ナンバー制は受注生産となるので、新たに自動プレス機等の設備投資が必要なため、運用可能年数が長い方が頒布料金を抑えられる点で望ましい。
- 一連番号と希望番号について、使用する分類番号やローマ字等を分けた方が、管理が容易になるため、受注生産するプレートメーカーでの製造など、運用面ではいいのではないかと。但し、資料に記載されている運用可能年数より短くなる可能性がある。今後、関係者より、事務局が想定しているローマ字の中で、この文字は避けてほしいと言われて運用可能年数が短くなる可能性があることにも留意する必要がある。
- ユーザーからの要望があることから、二輪車の希望ナンバー制を進めていくことは

大切。ユーザーは4桁の数字に重きをおいている傾向が強いが、そこに影響がなければ、新たな様式の選定に際しては、現状の製造・システム等に影響のない方法で行っていただければよいのではないか。二輪車は趣味性の高い乗り物であり、抽選対象となる番号は固まらず、ある程度ばらけるのではないか。

- 現在、地域名表示の文字は、1文字毎に大きさが決まっているが、漢字によって込み入り方が違う。4文字と長い地域名表示もあることから、1文字ごとではなく4文字合わせてこのくらいの大きさと、地域名全体でレイアウトできる方が望ましい。
- 希望ナンバー制の導入に対応するためには、新規生産設備の導入が必須である。生産設備の製造には、世界的な部品の供給不足の影響から、2～2年半程かかる見込み。各社に納品することになることを考えると、3年を見込んだ方がよいと考える。
- 様式の見直し及び希望ナンバー制導入に係るシステム開発は取り組みやすい。システム開発期間は、自動プレス機の導入よりは短期間で対応可能。
- 今後行う予定の希望ナンバーに係る需要量調査で、抽選対象の番号も合わせて調査してほしい。抽選対象でない番号に人気が出ると短期間で底を突いてしまい、運用可能年数が短くなる懸念があるため、慎重に検討する必要がある。

以上